

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第七期第1回豊島区生涯学習推進協議会
事務局(担当課)		文化商工部学習・スポーツ課
開催日時		令和4年12月12日(月) 午後3時～5時
開催場所		としま区民センター404
議 題		1. 開会 2. 委員委嘱(机上配付) 3. 委員紹介 4. 会長および副会長互選 5. 豊島区生涯学習推進協議会これまでの経過について 6. 今期のテーマについて 7. 今後の進め方について 8. 閉会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	高井正(会長)、中上亜樹(副会長)、齋藤知明、荘司哲夫、大高信、大澤友美、白根由貴、鈴木晴美、野瀬博
	そ の 他	
	事 務 局	文化商工部長、学習・スポーツ課長、 学習担当係長(生涯学習)兼社会教育主事、生涯学習指導員

審 議 経 過

No. 1

- 次第 1 開会
 - 次第 2 委員委嘱
 - 次第 3 委員紹介
 - 次第 4 会長・副会長選出
会長、副会長が互選され、承認される。
 - 次第 5 これまでの経過について（資料に基づき説明）
 - 次第 6 今期のテーマについて
 - ・第6期は、諮問を受け、生涯学習ビジョンという形で答申した。従来の計画にあるような事業をぶら下げずに理念をまとめるため、言葉の使い方や、イメージをどう伝えていくのか議論を重ねる苦労もあった。
 - ・評価体制についてはあいまいな形で終わっている。コラムにもあるが、マナビト生で学びを深めている方が、豊島区の取組の分析をして推進協議会で報告したこともあり、マナビト生の力も借りながら評価をしたらよいのではないか。この協議会では、評価の方向性の検討を進めていきたいと考えている。
 - ・評価といっても漠然としているため、初回は自由に考える時間にしたい。
 - ・今回、学識の先生に事前にお願ひし、評価についてお話ししたいと思っている。
- 副会長から、日本語教育の観点からの評価
- ・評価は本人たちの満足度を中心に考えている。はじめは自分たちに何ができて何ができなかったか、人生のライフステージをふりかえりながら、コースが終わった時に大きく自分自身をふりかえってもらう。
 - ・小さな評価や大きな評価を混ぜながら、評価していく。
 - ・評価は学習された本人だけではなく、教師にも必要である。教師に対しての評価は、学習者にやってもらう。
 - ・コース全体への評価は学習者の自己評価、学習者からの教師への評価、教師自身のふりかえり、日本語学校で専門学校をしている方やNPOなど年に3回委員会があり、そこで実施している。課題になっていることやこういうテーマで進めていく、なぜ文字を教えるのか、平仮名ではなくカタカナから教えないのはなぜか、今後どうすべきかなどを議論し、次の授業に反映させていく。
- 委員から、サービスマーケティングの観点からの評価
- ・ある事業の評価方法、知識を凶るということではなく、スキルや態度がどのように変化していったのかを計測する。参画度、情報共有(議事録作成、報告)、リフレクション報告書(ふりかえり)。自分の変化を長期的な視点で書かせることもやっている。
 - ・問われるものは「コンピテンシー」。知識だけではなく 社会人力を凶ろうとしてい

る。授業でオンラインでの盆踊りを企画実施する中で、学生にどのような成長があるか、最初と途中と最後で計測している。始まる前、途中と、実施後、報告会が終わった後を計測したらリーダーシップ力がある程度伸びていったのがわかった。活動をとおしてぐんぐん変化していくところが見えたのは面白かったが、社会人になるにあたって計測した値をさらにどう伸ばしていくのかは課題だと思っている。

□会長から、社会教育の観点からの評価

- ・ ということでも何かを行ってみて結果を考えると評価になる。大雑把に言うとアウトプットとアウトカム。例えば、自動販売機で 100 円を入れるとジュースが出てくる。入れるのはインプット、アウトプットはペットボトル。水が出てきてほっとした、のどの渇きが癒えた、というのはアウトカムという。アウトプットを解釈してアウトカムを出していく。
- ・ アンケート結果、リフレクションで何がどう変化したのか、長期的で言えば区民向けの健康診断を 10 年間やったら医療費がどれだけ削減できたかはアウトカムの評価となる。講座を受けて地域で活躍するのもアウトカム評価である。
- ・ 定量的な評価の問題点は、単純な回数や件数を目標としてしまいがちで回数をふやせばいいのかということそうでもない。
- ・ 定性的評価はどのように変わったかという判断だが、市民性、社会性をどう数字で測るのか、何を持って判断するのかを選定することが必要である。
- ・ 社会教育においては、学習者自身が自らの学びを評価する。学習の主体は学習者自身。社会教育の学びは誰も点数をつけない。自分自身が評価できる力をつけていく。
- ・ 社会人の評価の仕組みとしては「資格」そうした評価も一定の人には効果があることもある。
- ・ 中長期的、アウトプットアウトカム認識しておいた方がいいのかなと思う。

□委員…学校教育の経験から

- ・ 学校教育では、指導と評価の一体化が大切。評価基準を明確にし、共有化することが求められる。
- ・ 目標を実現するために、何のためにこれをやるのか、きちんと子どもたちがわかるように書き、具体性を見せるということがとても大事である。

□委員…みらい館大明での講座運営の経験から

- ・ 参加者の満足度も大事であるが、意外と大事なのは、講師が満足するかどうかである。
- ・ みらい館大明の館長は独特の評価基準があり、講座が終わってから(参加者が)笑顔で出てくるのはいい講座。要は観察力だと思う。

□委員…Ane ママグループ TOMATO での講座運営の経験から

- ・ 基本的には参加してくれた方の満足度、すっきりして帰っていく。
- ・ アンケートを見ると主催者が気づかなかったことに気づかされることが多い。

□委員…生涯学習音楽指導員の経験から

- ・目的があってそれを学びたい、ボランティア活動の場があること、生かす場面があること、資格であっても勉強している人に対してはその資格を生かせる場があることが大事。生かす場面が評価につながるのではないか。

□委員…合唱活動の経験から

- ・歌は健康にもよく頭の体操になる。常に評価しながらやっている。年に2回のコンサートではアンケートを取り、次に生かそうとなつて、張り合いもでる。

□委員…スポーツ推進委員の経験から

- ・体験した方が変わっていく、その場で表情や態度が変わる、無事で終われば本当によかったなと思う。アンケートが返ってこないこともあるが、直接電話でお礼をもらうこともあり、そうした目に見える評価が現れるとやりがいにつながる。

○次第7 今後の進め方について

- ・今後は小委員会を設け、議論を深めていく。小委員会の人選については会長一任。
- ・次回の開催は3月を予定。

会議の結果	今後、小委員会等を通し、評価の方向性の検討などについて議論を深めていく。
提出された資料等	資料 No.1-1 豊島区生涯学習推進協議会条例及び規則 資料 No.1-2 豊島区生涯学習推進協議会委員名簿 資料 No.1-3 豊島区生涯学習推進ビジョン 2020 - 2024 資料 No.1-4 『としま学びスタイル発見カタログ Vol.4～6』 資料 No.1-5 豊島区生涯学習推進協議会これまでの経過について 資料 No.1-6 今後の検討スケジュールについて(事務局案)